

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



March						
S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
						31

March 2024 vol.119

◆ あらいせきしよ 新居関所

所在地：静岡県湖西市新居町

交通：JR 東海道線「新居町」駅 西約 700m

浜名湖は、かつては西に流れ出る浜名川（河口は現在の今切口より西に約 5km）で太平洋とつながる淡水湖でしたが、明応 7(1498) 年の明応地震により、今切口の部分が沈下し決壊して太平洋とつながり、潮水が入り込んで汽水湖（海水と淡水が混じり合う湖）に変わったと言われています。（繰り返す地震や暴風雨によるとする説もあります。）

浜名湖が浜名川で太平洋とつながっていたころは、浜名川沿いの浜名橋周辺に位置した橋本宿が栄えていました。しかしながら、明応地震で壊滅的な被害を受けたことにより、橋本の住民は今切・新居地区に移転します。また、浜名湖が太平洋とつながったことにより、東海道は浜名湖の東の舞阪から西の新居まで、今切口を船で通過する必要が生じ、渡船・今切の渡しが置かれました。新たに交通の要衝となった新居には、1600 年頃になると新居宿が成立し、慶長 5(1600) 年、徳川家康により新居関所（正式には今切関所）が設置されました。家康は全国に 53 か所の関所を設けましたが、新居関所は約 100 年間、幕府直轄として最高の警備体制が敷かれ、鉄砲など武器の通行はもちろん、女性の通行にも手形の提示を求めたとされ、不備が見つかれば通ることは許されませんでした。

浜名湖に面した新居関所はその後、繰り返し災害に襲われ、移転を余儀なくされます。慶長 5(1600) 年に設置された当初は、浜名湖の今切口に近い場所でしたが、元禄 12(1699) 年には、台風・高潮の被害に遭い、翌年、内陸の

藤十郎山（現在の新居高校付近）に移転しました。当初、舞阪から新居間の渡船は航路約 2.9km でしたが、この移転により、約 4km となりました。さらに、宝永 4(1707) 年の宝永地震で再度大きな被害を受けます。白須賀宿、袋井宿、浜松宿など、静岡県西部の広い範囲で建物の倒壊や津波の被害が発生した宝永地震では、内陸へ移転していた新居関所付近にも 3m ほどの津波が 3 度も襲ったとされ、665 軒が被害を受け 120 軒が流失、「関所跡かたなし」とされるほどの被害が発生しました。地震で建物が全壊・流失した新居関所は、わずか 3 か月の突貫工事によって、翌年にはさらに西の現在地に移転し再建されますが、これにより、舞阪との距離は約 6km となり、旅行者は危険を避け、浜名湖の北を通る、陸路の本坂通ほんさかどおりを利用するようになりました。

新居関所はその後、嘉永 7(1854) 年の安政東海地震でも大破しますが、5 年をかけて建て替えられ現在に至っており、昭和 30(1955) 年には国の特別史跡に指定され、昭和 46(1971) 年には解体修理が行われて、日本で唯一現存する関所建物として、貴重な遺構となっています。近年では発掘調査に基づき、護岸の石垣や渡船場なども復元され、新居関所跡全体の復元整備が進められています。



新居関跡

中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 (http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=33) もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●^{とうかんのんじ}東観音寺 (vol.42,2017.10)

所在地：豊橋市小松原町

交通：JR 東海道本線「二川」駅南約5km

古来、渥美半島の太平洋岸に連なる海食崖の下の浜辺には伊勢神宮へとつながる伊勢街道が通っており、街道沿いに多くの集落があったと伝えられています。東観音寺は、この伊勢街道沿いの小松原村を治めていた寺で、江戸時代初期（宝永地震以前）の「東観音寺古境内図」には、東観音寺があった付近の海岸には伊勢街道が通り、町屋が建ち並ぶ様子が残されており、もともとは東観音寺がこの伊勢街道の近く、海食崖の下に立地していたことがわかります。宝永4(1707)年の宝永地震の津波により大きな被害を受けた東観音寺は、正徳3(1713)年までに海岸から北に約2km離れた現在の地に移転をしています。なお、小松原海岸の雑木林の中の移転前の東観音寺の跡地には、「開山行基菩

薩」と刻まれた石碑が残されています。

宝永地震の津波では、東観音寺以外にも海食崖の下の伊勢街道沿いの集落で多くの被害が発生し、伊勢街道は壊滅的な打撃を受け、多くの寺院・神社が海食崖の上の高台に移転しています。こうした高台への移転による津波対策は、宝永地震から約150年後の嘉永7(1854)年の安政東海地震の際に大きな効果を発揮し、安政東海地震の津波で被害を受けたとされる社寺は2社寺にとどまっています。

このような災害に対する備えの成功事例は、現代の防災を考える上で大変参考になる事例であり、災害に対する教訓の伝承として、もっともっと積極的に伝えられるべきものであると言えるのではないのでしょうか。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.42 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★浜名湖花博 2024

浜名湖花博 2004 から 20 周年を記念して、3 月から 6 月にかけて、浜名湖周辺の 2 会場で浜名湖花博 2024 が開催されます。

浜名湖ガーデンパーク会場(4/6～6/2)は、世界的な庭園デザイナー・石原和幸氏監修の汽水園、移り変わる景色が魅力的な印象派庭園・花美の庭が見どころです。期間限定レストラン「ターブルブルー LENRI」では、浜松野菜パフェを始め、花と静岡県産食材をテーマとした料理が堪能できます。はままつフラワーパーク会場(3/23～6/16)の見



浜名湖花博 2024 HP より

どころは、枝垂桜と春の花が魅力のフラワーフォレストや生物多様性ガーデン・はなのほらです。夜間には、日本最大級のウォータースクリーンによる大噴水ショーも開催されます。

～宿場町を巡る～

新居宿は、東海道の江戸・日本橋から数えて 31 番目の宿場で、天災による 2 回の移転を経て現在の地に移り、京都風の町並みが作られました。



新居関所のほか、江戸時代に徳川御三家の一つ紀州藩の御用宿として利用された旅籠紀伊國屋、大正から昭和にかけて、歓楽街の芸者置屋や小料理屋として営業していた小松楼本館などが残されており、細い路地や古い家屋から当時の街の面影を感じることができます。

●ブレイクタイム●

♪ BOAT RACE 浜名湖

BOAT RACE 浜名湖（浜名湖競艇場）は、東日本で最初に開設された競艇場で、当初は弁天島にありましたが、昭和 43(1968)年に新居町の現在地に移転しました。JR 新居町駅の競艇場口からは徒歩約 3 分の専用通路があり、雨にぬれずに入場ができます。ファミリーでも楽しめる施設として、屋外に広大な公園が設けられているほか、2019 年には施設内に親子のあそび場「Moovvi 浜名湖」がオープンし、キャラクターショーや、グルメ屋台の出店などのイベントにも力を入れています。



BOAT RACE 浜名湖 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年3月)